



日本イーストウェストセンター同友会

The Japan EWC Association

ニューズレター 第3号

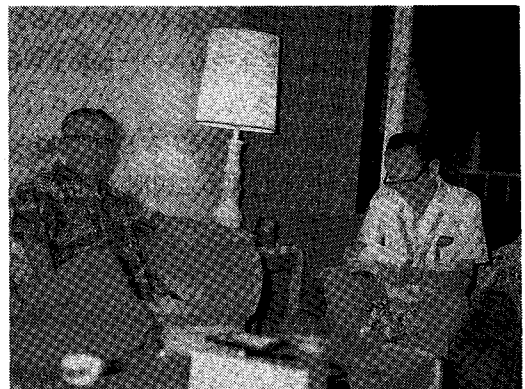
イーストウェストセンターの初代日本人理事 井深大氏に同行して

西山 千

1975年に当時イーストウェストセンターの所長であったエベレット・クラインヤンズ氏が東京に来てEWCの制度を変えたことを話した。それまではアメリカ政府資金によって運営されていたEWCを法人組織に変え、アメリカ政府資金のみならず広く他国資金や民間からのきよ出金によって運営されることになった。その新しい体制の一面として、EWCが国際的な理事会(Board of Governors)の支配下におかれ、理事にはアメリカ人の他アジアや太平洋地域からも就任することになった。

「そこで北東アジア地域から日本のミスター・イブカに理事になってもらえないだろうか」と私に話を持ち込んできた。その理由は当時私はソニーに勤めていたし、ソニーの創立者である井深大氏とは第二次大戦中からの知り合いであったからである。その経緯で、必要な手続きの後、1976年の1月に日本人の初代理事として井深氏が就任したのである。私は井深氏のお手伝いをするため毎年二回開かれる理事会に同行した。井深氏は二年の任期を二回勤め、EWC側から続けてもらいたい要望があったが、任期終了の1980年に辞退した。

この1976年から1980年までの四年間にさまざま



1977年6月ホノルルにて(向って左が井深氏, 右筆者)

な問題が理事会に提出されたが、そのうちとくに私の記憶に残っている問題が二つある。その一つは各国からのきよ出金について日本に大きな期待がかけられた問題であった。井深氏は外務省と経団連に働きかけたが、結果はかんばしくなかった。聞くところによれば、外務省が大蔵省に予算の話を持ち込んだら、「金持ちのアメリカになぜ寄付する必要があるか」という態度であったそうである。当時日本政府は国連大学に高額の資金をきよ出していたが、アメリカはゼロであった。こういう不満の心理も影響していたかもしれない。またEWCはアメリカだけの機関でなく、アジアおよび太平洋諸島の機関

でもあるという認識も不足していたらしい。井深氏は理事就任の条件として寄付集めの責任はとらないということでEWCは承知したのであったが、こういう日本国内の態度とEWC側の期待との板挟みになって苦慮したらしい。ようやく少しのきょ出があったが、韓国、タイ、台湾などのきょ出額に比べて、まことに恥かしいものであった。

それから二つ目の問題は台湾と大陸中国の問題であった。台湾からの留学生や研究者に対して台湾当局が監視活動をして留学生や研究者の自由行動を束縛しているとの話が広がり、それが大陸中国との交流を妨害するとして、EWCやその隣にあるハワイ大学のキャンパスで抗議運動が展開された。「EWCが台湾当局にそのような監視を中止するよう行動を起すべきである」といって、アメリカ人の学生や教授の一部がEWCの理事会に乗り込んできた。

学問の自由は当然守る立場にあるEWCであったが、政治問題、とくに他の二国間(当時二国とアメリカはみなしていた)の政治問題に介入できないし、すべきでないという立場を堅持

しなければならなかった。しかし抗議者たちは台湾当局を弾劾するよう要求していた。

この問題に対して理事会のメアリー・ビッターマン議長は落ち着いた理性的な態度で応じ、EWCの基本的な線にそって発表文を作成、理事会は全会一致で可決した。それから抗議運動も徐々に下火になったが、しばらくの間は、新聞論評や学内論争が続いた。井深氏はこの件についてだけでなく、その他の議題についてのビッターマンさんの見事な議長ぶりを賞賛していた。

井深氏の理事としての二回の任期が終了して八年後の1988年10月に私はEWCのあるセミナーに参加した。それは「Pacific Basin Update」という二日間のセミナーで、韓国、フィリピン、台湾、中国、日本などの現状を論ずるテーマであった。そこに台湾と北京から新聞編集長が出席し、二人が席を並べてそれぞれ台湾情勢と中国の現況を卒直に発表し、自由に意見を交換し合っていた。約十年前のEWC理事会に対する抗議運動を思い出し、時代がいかに大きく変わっているかを痛感した。

総 会 報 告

去る11月19日(土)午後6時より東京の日本工業倶楽部において1988年度日本イーストウェストセンター同友会総会が行われました。出席者は30名、委任状220通余をもって成立し、顧問の山下勇氏、関西チャプター会長の須藤淳氏にもご出席頂きました。馬場会長から日本同友会のニューズレター第1号、第2号が発行されたこと、3月に永谷敬三博士を迎えて第1回セミナーが開催されたこと、6月にはインドネシアバリ島におけるInternational Conferenceに、馬場会長はじめ、日本から30名余の参加があったこと、等の事業報告がなされたのに続き同友会の会費収入の中より金50万円也を(国際)イ

ーストウェストセンターアソシエーションに寄付する議案が可決されました。続いて、バリ島におけるEWCAの幹事会で新Chairmanに選出された千本倅生氏から各国のAlumniからの寄金を必要としているEWCAの現状と事業計画についての説明があり、鑑江龍一幹事の会計報告では特に過去1年間に延べ337名もの会員から会費振込があった由報告され、収支が承認されて、最後に顧問の山下勇氏からアジア・太平洋地域における統一規格作りについての短いお話を聞いて総会を終了しました。

総会後は、第2回セミナーを兼ねて'62-'64のグランティで現大和定住促進センター所長の内

藤健三氏に「難民問題…世界と日本」と題した講演をして頂きました。短い時間の中でしたが、難民に関する有益なお話で、ここにご紹介できないのは残念です。ご希望の方には要旨を記して頂いたプリントがございますので、お申し出頂ければコピーをお送り致します。尚、当日大和定住促進センターへのカンパを募りましたところ¥44,000の寄付をさせて頂くことが出来ました。乾杯の後、歓談は尽きませんでした。が

場の都合もあり9時前散会しました。

EWCAから、ご寄付を頂いた皆様にお礼の手紙を差し上げたいので氏名を教えてほしい旨の依頼がございましたが会費を納入して下さった方の数は300にのぼるため郵送代節約のためにも、このご心配は無用にして頂くよう勝手ながら返答させて頂きました。皆様には紙面を通してお礼申し上げます。 (中村正枝)

会 計 報 告 1988年度 (1987年10月16日～1988年11月18日の分)

収入の部	前期より繰り越し	¥ 106,804
	年会費 (337名分)	¥1,683,000
	総会 (1987年10月16日) 参加費 (¥7,000×22名分)	¥ 154,000
	合 計	¥1,943,804

(収入の部の内訳)

年会費1987年度分 (1987年9月8日～1988年8月27日)	¥5,000×205名 = ¥1,025,000
1988年度分 (1988年9月21日～1988年11月7日)	¥5,000×131名 = ¥ 655,000
	¥3,000×1名 = ¥ 3,000
	(関西支部会員は、本部への年会費の納入額は¥3,000となった)

支出の部	1987/10/16	前回総会経費 (外国特派員クラブ)	¥167,720 + ¥800 (送金料)
	"	コピー代 (会計報告用) (¥20×50枚)	¥ 1,000
	1988/2/29	ニューズレター1号経費	¥130,730 + ¥400 (送金料)
	3/6	高沢前会長御尊父香典	¥ 10,000
	3/18	セミナー講師謝礼 (筑波大客員教授・永谷敬三博士)	¥30,000 + ¥600 (送金料)
	3/30	関西支部講演謝礼	¥30,000 + ¥100 (送金料)
	8/18	年会費払込通知票印刷代 (1,500枚)	¥ 12,000
	9/20	ニューズレター2号経費	{ ¥91,000 + ¥400 (送金料) ¥85,470 + ¥600 (送金料)
		小 計	¥176,470 + ¥1,000 (送金料)
	10/18	総会用追加通知ハガキ印刷代	¥32,000 + ¥400 (送金料)
		{ 印刷代 (600枚)	¥ 8,000
		{ ハガキ代 ¥40×600 =	¥ 24,000
	11/14	関西支部へ年会費の一部払い戻し (¥2,000×15名分)	¥30,000 + ¥100 (送金料)
		○諸雑費 (年度幹事郵便代、文具代等) (6件)	¥ 18,390
		合 計	¥ 641,710
		収支合計	¥1,943,804 - ¥641,710 = ¥1,302,094

EWCAへの寄付 (1988/3/18 富士 裕氏)

¥ 6,500

以 上

会 計 鑑 江 ㊦

Chapter Leaders

Workshop に出席して



East-West Center で、1989年1月22日から26日まで、第1回の Chapter Leaders Workshop が開催され、私は、日本イーストウエストセンター同友会の代表として出席させていただく機会を得ました。フィリッピン、タイ、南カリフォルニア、マレーシア、沖縄、オーストラリア、香港、インドネシア(バリ)、ハワイ、パキスタン、韓国、インドネシア、ニュージーランド、シンガポール、そして日本の14の Chapter Leaders が参加、EWCA の Board の Chair の千本俸生氏、Vice Chair の Ms. Cynthia Ai と Mr. Puongpun Sananikone、Secretary / Treasurer の Ms. Vicki Shambaugh、Alumni Officer の Mr. Gordon Ring などでした。

また、EWC の館長の Mr. Victor Hao Li や Dean の Dr. Sarah D. Miyahira や staff の方々も参加され、さらに、前の EWCA の Chair の Dr. Didin Sastrapradja など参加されました。

1月22日の夕方、Ms. Cynthia Ai が、マンダリン・レストランに招待して下さいました。ほとんどの出席者は1988年のバリ島の会議で逢った人たちでしたので、再会を喜び合いました。

1月23日の夕方、EWC の Dean である Dr. Sarah Miyahira の主催で、歓迎パーティが開かれ、Workshop に出席する予定のほとんどの人々の顔がそろいました。

1月24日の朝8時半より、会議が始まりました。まず、各 Chapter の Case Study の発表があり、各 Chapter の状況について、意見交換を

しました。日本 EWCA については、今までの活動状況について発表し、特に Case Study としては、Newsletter の発行が、会員相互のコミュニケーションに役立ち、そのことが Chapter の活性化につながってきているように思うとお話をしました。日本 EWCA の Newsletter の内容は、日本語なので読めないが、見たところ、非常に professional job であると、多くの方々からおほめのことばをいただき、中村正枝さん(1964~66)、岡久子さん(1965~67)をはじめ皆々様の御協力を心から感謝したさせていただきます。

また、昨年の総会で御賛同を得ました EWCA への50万円の寄付に関しましては、大変感謝されました。これは、会員の皆々様が会費を納めて下さったこと、そして幹事の皆々様がすべて手弁当で協力して下さいったおかげとたゞ感謝の気持ち一杯でございます。

Chapter の活動につきましては、それぞれの Chapter のおかれた状況が異なりますので、それぞれが自分のやり方でやるという方針が決定されました。

なお、Workshop の要約は、下記のごとくです。

最後に、私が会長になって以来、本当に多くの会員の方々からの励ましの手紙、電話などをいただき、また幹事の皆々様の御協力をいただき大変ありがたく、感謝してしております。ここに、心よりお礼を申し上げます。

Summary of Chapter Leaders Workshop

Fourteen Chapter leaders from the Philippines, Japan, Thailand, the United States, Malaysia, Australia, Hong Kong, Indonesia, Korea, New Zealand, and Singapore attended the first Chapter Leaders Workshop at the East-West Center from January 22-26, 1989.

They were joined by EWCA Executive Board members and Center staff in reviewing the current status of the alumni network and developing plans for the association and individual chapters. The opportunity to share ideas among the chapters and to gain a better understanding of the East-West Center Association was especially appreciated by the attendees. The participants agreed unanimously that the workshop was a great success and should be repeated on a regular basis.

General Conclusions of the Workshop

1. Clarification was made that the Chapters are the East-West Center Association. The EWCA Executive Board's purpose is to support the Chapters and to work toward the fulfillment of the EWC mandate in the region.
2. The EWCA should involve business, government, and academic sectors in all its activities in order to ensure that its programs are relevant to all sectors.
3. Chapters should determine ways to link with key institutions and alumni with influence in order to facilitate the work of the chapters. By combining chapter resources with the resources of other organizations and individuals who share the goals of the chapter, far more can be accomplished by individual chapters.
4. The Alumni Office and EWCA need to develop methods to actively involve current participants in alumni activities so that these participants will become future chapter leaders.
5. With regard to the definition of members, we agreed that we should be inclusive rather than exclusive. We also agreed to move in the direction of calling ourselves "associates" rather than "alumni" to project our professionalism.
6. Chapters should have a great deal of autonomy to pursue programs of local interest. Chapters should also have autonomy in determining ways and means of fund raising in their area.
7. The EWCA and the Chapters will focus attention on initiating substantive high quality programs throughout the region as follows:
 - a) Indonesian Chapter will implement the first Regional Workshop in Indonesia, September 11-13, 1989.
 - Chapters to provide input for participants at workshop
 - b) The Thai Chapter will continue planning for the 1990 Regional Workshop and the 1991 International Conference.
 - Chapters to assist in organizing workshops
 - c) The Southern California Chapter will continue preliminary planning for a 1990 regional meeting in Long Beach.
 - Chapters invited to attend and participate

- d) The New Zealand Chapter will continue planning a regional meeting possibly in 1992.
 - e) The Washington, D.C. Chapter will continue exploration of the feasibility of holding a regional meeting.
8. Other actions resulting from the Workshop included:
- a) Each chapter completed a draft action plan.
 - b) EWC videotapes will be sent to 12 interested chapters by sea mail.
 - c) Each chapter identified key liaison contacts for communications / Centerviews, hospitality, and fund raising.
 - d) Gordon Ring will develop a systematic method to formally recognize new chapters.
 - e) Chapters and EWCA will develop ways to recognize and reward key volunteers.
 - f) Gordon Ring will provide updated information on recent alumni to each chapter every six months.
 - g) Copies of Workshop materials will be sent out to all chapters that could not participate.
 - h) Chapters will be given an opportunity to observe EWCA Board meetings.
 - i) Gordon Ring will check with Jeannette Paulson on linking the Hawaii Film Festival with interested chapters including the Philippines, Korea and Malaysia.
 - j) Applications for Chapter Incentive Funds will be reviewed and funding decisions made in February.
- k) Gordon Ring will explore providing EWCA credit cards for alumni.
 - l) Chapters will seek innovative ways to fund raise in their countries.
 - m) Chapters should develop programs and activities that are of collective self interest to the alumni while also accomplishing EWCA and EWC goals.
 - n) Gordon Ring will assist chapters in arranging for EWC staff to visit chapters. Need 2-3 months lead time to do it right. Several leaders noted that if Sumi or Rose could visit, that would ensure a good turnout.
 - o) Gordon Ring and Chapters will work together to ensure better coordination of updating of alumni data.
 - p) Chapters will take more initiative to provide articles for Centerviews.
 - q) More chapters will initiate chapter newsletters and these newsletters will be shared among the chapters.
 - r) The EWCA Fund Raising Committee will prepare boiler plate material for external fund raising proposals.
 - s) Each chapter should aim toward financial self sufficiency. After three years, each chapter should review its needs for continuing help from the Center and EWCA. Seed money and incentive funds should be seen as developmental funds for new chapters, not as a permanent source of funding support for established chapters.

- t) Contact phone numbers for Chapters will be shared.
- u) Chapter leaders reviewed the EWCA Long Range Plan and offered suggestions to the Executive Board.
- v) There should be another Chapter

Leaders meeting in 1990 for those who could not attend the 1989 meeting. Another meeting should be scheduled in 1991 on the day before the Thai International Conference.

馬場房子

イーストウエストセンター 中部同友会発足について

代表幹事：宮川佳三

かねてから名古屋を中心としたイーストウエストセンター同窓生の間で懸案となっていた中部同友会設立が具体化することになりました。昭和63年10月に、星野（名市大）と宮川（南山大）が発起人となり、中部地区（愛知、岐阜、三重、静岡、石川、福井、富山、新潟）に在住・在職の約60名の同窓生に同友会設立に関する案内をさせていただきましたところ、殆どの同窓生からご返事を頂きました。

11月5日に会合をもち、会則、運営の仕方などについて話し合いを致しました。

平成元年夏までに「名簿」「会則」をお送りし、会を軌道に載せるために努力しています。何分予算ゼロ・小人数で仕事をしておりますので、時間が今少し必要ですが、なるべく早く御案内することができるように仕事を進めています。

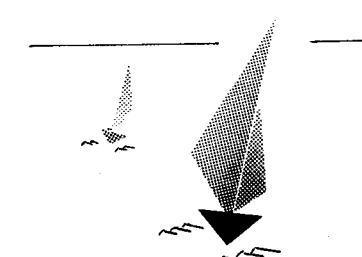
アジア・太平洋地域の政治・経済・安全保障に大きな関心が向けられています。その意味でイーストウエストセンターの果たす役割はますます大きくなるものと思われます。中央からだけではなく、周辺地域からも直接的・間接的にホノルルと協力関係をもち、深めていくことが必要との認識を強く持ち、中部同友会を意味のある存在にしていきたいと思っています。アジア・太平洋地域の知的ネットワークのなかに中

部同友会を位置付けることができるような活動を積極的に行っていきたいと思っています。皆様の積極的な参加と協力に期待をしております。

(1989年3月13日)

沖縄チャプターに関して

沖縄県では Alumni の数も多く、独立したチャプターも組織されているため、1960年代の小数のグランティを除いては殆ど同友会の名簿には載っておりません。現在、関西チャプターの皆様からは会費¥5,000のうち¥3,000を東京、¥2,000を関西という割合で分けて頂いておりますが、沖縄からも東京に¥3,000納入して頂いた方は名簿記載の他、ニューズレター等の通信を差し上げる方針です。



講演夕食会行われる

平成元年3月31日(金)夕、東京五反田のゆうぼうとに於て中村敦夫氏による「国際的視野から見た日本の現状と将来」と題した講演夕食会が行われました。この会はEWCAへの寄金調達計画の1つとして企画されたものですが、1日に3つの講演依頼があるという同氏が多忙の中快くお引受け下さったため実現したものです。当日は約50名の会員やご家族の参加を得て盛会でした。

会は、中村氏と同時期にEWCで同じ演劇専攻であった金子(酒井)洋子さんの司会で始められ、中村氏はEWCが米国の文化に触れるきっかけになり、米国人と日本人の個人としての自立性や意見の発表力、価値観などの違いを感じさせられたエピソードを語られました。また、映画・演劇界やジャーナリズムの世界における仕事の中で、外国人が理解している日本人像というもの、また日本の社会における観念的階級が存在が自由な議論を妨げており、それ故日本に



は真の国際化を培う土壌がない、等ご自分の経験を通した興味深いお話をされ、その後質疑応答では日米ジャーナリストの根本的な違いや、アジアから日本への留学生への対処の方法など意見が交されました。

皆様のご協力のおかげで、当日の収支による寄金は19万2,500円にのぼりました。その中6万円は中村敦夫氏からのご寄付によるものです。早速EWCA宛送金させて頂きました。

(中村正枝)

名簿訂正

Page

- | | | |
|---|-----------------|---|
| 1 | 藤田清成 | 転居先不明 |
| 2 | 大藤芳則 | (勤務先電話) →06-943-8901 |
| 3 | 寺村秀夫 | 〒562 箕面市桜丘3-1-9 TEL 0727-22-6471 大阪大学文学部
06-841-1151 |
| 4 | Asano, Motokazu | 削除希望 |
| 6 | 和井田紀子 | →死去 |
| 7 | 古畑正秋 | →死去 |

- | | | |
|-------|----------|---|
| 7 | 後藤峰雄 | →後藤峯雄 |
| 8(新) | 辛島篤美 | (自宅住所) 渋谷区代々木5-21-16-503 TEL 03-485-6089
(勤務先) 国立劇場調査養成部 TEL 03-265-7411 |
| 8 | 金子のぶ | →(旧姓) Marumoto → Marumo
(自宅住所) コーポオリンピア→コーポオリンピア |
| 9(新) | 村田勝弘 | (自宅住所) 〒006 札幌市西区星置2条3-3-10
(自宅電話) 011-685-8248 |
| 10 | 寺村公男 | (郵便番号) →573-01 |
| 13 | 松本正和 | (自宅電話) 503-753-7280 |
| 14 | 門田光雄 | (勤務先) 川崎製鉄エンジニアリング事業部→川崎製鉄出向
(株)ジェイ・エム・エス TEL 0472-42-1611 |
| 14 | 中村正枝 | (勤務先) →日本工学アカデミー |
| 14 | 奥田良彦 | (住所) 目黒区車山→目黒区東山 |
| 15 | 山口修 | (住所) 豊中市西緑丘→豊中市緑丘 |
| 18 | 岡久子 | (勤務先) アップジョン ファーマシューティカルズ リミテッド
→アップジョン ファーマシューティカルズ リミテッド |
| 19 | 渡辺和幸 | (住所) 大洋市→大津市 |
| 22 | 棚橋啓一 | (勤務先) 北海道工業大学 TEL 011-681-9528 |
| 24 | 声友秀 | →声田友秀 |
| 29 | 浦上要三 | (住所) 京都市伏見区深草4-81-507 TEL 075-643-6033 |
| 30 | 梶浦金二郎 | →梶浦欣二郎 |
| 32 | 渡辺信一 | (自宅電話) 075-492-5372 |
| 34 | 松崎洋子 | (住所) 霧が丘4-1-1-3-103→霧が丘4-1-3-103 |
| 38(新) | 寺島 Jane | Public Health
〒659 芦屋市朝日ヶ丘町14-8-403 TEL 0797-23-1421 |
| 40 | 小林幹夫 | →小村幹夫 |
| 42 | 久米昭元 | (自宅電話) →078-991-6537
(勤務先電話) →078-794-8251 |
| 43 | 田中和子 | (自宅住所) 舟戸→舟渡 |
| 45 | かわいなおえ | →川合ナオエ (自宅電話) →0427-95-3444
(勤務先) シャーリー・ランナム・スクール TEL 0467-78-6010 |
| 47 | 今野裕昭 | (自宅住所) →〒010 秋田市千秋矢留町2-27-1203 |
| 48 | 加藤三郎 | 削除希望 |
| 48 | 松下けいいちろう | →松下敬一郎 |
| 49 | 太田幸夫 | (勤務先) →フリーランス グラフィック デザイナー |
| 49 | 千本倅夫 | →千本倅生 |
| 53 | 伊本俊明 | (住所) 842-21-56-8→842-21 みつい台56-8 |
| 53 | 楨原久美子 | (自宅電話) 03-941-1560 |
| 54 | 古橋政子 | (郵便番号) 615 |

- 55 籾野 脩一 (自宅住所) →〒176 練馬区光が丘7-6-104
 56 加藤 剛 (自宅住所) 東合同→桃山東宿舍
 56 小泉 明 (自宅住所) 〒227横浜市緑区桜台33-7-3-22
 56(新)佐藤 都喜子 (自宅住所) 山梨県甲府市塩部3-12-1 TEL 0552-51-3731
 Sato, Tokiko (勤務先) 帝京大学医学部 TEL 03-964-1211
 59 佐藤 知一 (自宅住所) パセンアーズハウス→パセニアーズハウス
 59 田中 勝邦 (自宅住所) 井口鈴が台3-3-35-401→井口4-35-12

会費納入のお願い

1989年度の会費の納入をお願い申し上げます。
 振込用紙を同封させて頂きましたのでご利用下さい。会費は¥5,000です。

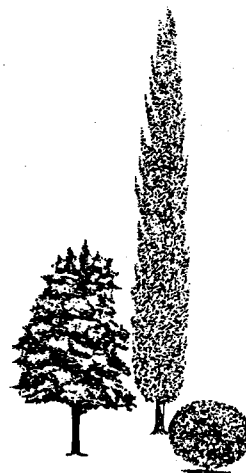
訂正

ニューズレター第2号 p.4 の EWCA Fund Raising 用振込口座番号が間違っておりました。お詫びして訂正させて頂きます。

東京 6-352735

亜細亜大学馬場研究室内

日本イーストウエストセンター同友会 (ハ)



編集後記

皆様のご援助、ご協力によりまして、ニューズレターも第3号になりました。創刊号、第2号の発行準備は大変な作業のように感じておりましたが、第3号の発行準備は意外に速やかに行えるようになりました。

会長のお話によりまして、ニューズレターがそれなりの役割を果たしているようです。日本イーストウエストセンター同友会の活動も活発になり、いろいろな地域とのつながりも広がって行くのが嬉しく思えます。(H. O.)

ニューズレター 3号

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会

発行責任者 馬場 房子

〒180 東京都武蔵野市境5-24-10

亜細亜大学馬場研究室内

電話 0422-54-3111

タナカ印刷機